

2026.6.5
Dance Base Yokohama

台湾・高雄の国立劇場にて、開始から10年を迎えるダンスプラットフォームへ参加
ショーケースで“Wings”高橋萌登『仄仄 (ほのぼの/Faintly Here)』を上演



Photos by Naoshi HATORI

この度、「世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト “Wings”」の一環として創作された、高橋萌登による『仄仄 (ほのぼの)』(英語タイトル: 『Faintly Here』) が、2026年11月に台湾・高雄市で開催される国際ダンスプラットフォーム 「2026 Taiwan Dance Platform」におけるショーケース「Body Lab: Focus Asia」へ参加することが決定しました。屋外会場にて、一部シーンより抜粋/出演者2名のリクリエーション作品を上演します。

■ 作品について

本作は、日本の怪談に着想を得て、高橋自身が本作のために書き下ろした詩的物語を軸に構成。ヒップホップとクラシックバレエの経験を持つ高橋が、それらを融合した独自の振付言語を探求することで作品の世界観に厚みを持たせ、さらに自作の音楽も用いることで、唯一無二の身体性と空間、時間の流れや間(ま)を提示します。自筆の詩的物語では、「怪談」として、誰かと共にした記憶や交えたかもしれない瞬間に対して、目や耳を逸らさず、それに触れてみることからはじめ、気配に対する感覚へのざらりとした手触りを、また、あわいに立ち現れるものたちとのささやかな交感を描き、舞台上に投影します。

■ [2026 Taiwan Dance Platform] Body Lab: Focus Asia について

「Taiwan Dance Platform」は、台湾・高雄の国家両廳院 衛武營國家藝術文化中心 (National Kaohsiung Center for the Arts - Weiwuying) が2016年より隔年で主催する国際的なダンスの祭典です。公演・フォーラム・ワークショップを通じて台湾内外のアーティストをつなぎ、新進アーティストの紹介、ダンス批評家やライター育成、台湾および海外の作品の上演を行う、アジアの同時代ダンスのハブとして機能しています。その一環で開催するプログラム「Body Lab: Focus Asia」はアジアを軸とした同時代の身体表現を国内外の観客と専門家に向けて披露するショーケースです。

■ 今後の展開について

“Wings”はDaBYが継続的に支援する6組のクリエイター(阿目虎南、岩淵貞太、小野彩加、中澤陽、スペースノット、柿崎麻莉子、鈴木竜、高橋萌登)の国際的な活動を推進しています。DaBYは今後も国内外のダンスハウスネットワークを拡張しながら、日本のダンスシーンの国際的な発信拠点としての役割を担ってまいります。なお、「世界に羽ばたく次世代クリエイターのためのDance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト “Wings”」は、「文化芸術活動基盤強化基金」による「クリエイター・アーティスト等育成事業」【舞踊部門】に採択され、2024年より実施しています。

公演タイトル	Dance Base Yokohama / Moto TAKAHASHI <i>Faintly Here</i>
公演日程	2026年11月28日 (土)、11月29日 (日)
上演回数	2回
会場	衛武営国家芸術文化センター 樹冠大廳東側露台
所在地	高雄市鳳山区三多一路1号
フェスティバル	[2026 Taiwan Dance Platform] Body Lab: Focus Asia
チケット発売	2026年5月29日 (金) より発売 (販売中)
公演詳細情報	https://www.npac-weiwuying.org/programs/69c49d5d55ff8a0007dc8238?lang=en

■ 高橋萌登 描き下ろし詩的物語はこちらからご覧いただけます

日本語: <https://dancebase.yokohama/wp/wp-content/uploads/2025/10/honobono.pdf>

英語: <https://dancebase.yokohama/wp/wp-content/uploads/2025/06/Faintly-Here.pdf>

■ 作品クレジット (初演時)

演出・振付・出演・音楽: 高橋萌登

出演: 大西優里亜、中谷友紀 ※台湾公演では、出演者は高橋萌登 中谷友紀の2名となります、

パフォーマンス・ビジョン・イネーブラー: 伊藤千枝子

プロデューサー: 唐津絵理 (愛知県芸術劇場 / Dance Base Yokohama)

技術統括: 世古口善徳 (愛知県芸術劇場)

技術監督: 湯山千景

舞台監督: 中井尋央 (URAK)

音響デザイン: 中原楽 (KARABINER inc.)

照明デザイン: 櫛田晃代

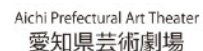
制作: 神村結花 (Dance Base Yokohama)、瀧本麻璃英

初演: 2025年11月(メニコン シアターAoi)*パフォーミングアーツ・セレクション2025 Festival Edition

企画制作: Dance Base Yokohama [一般財団法人セガサミー文化芸術財団]

共同製作: Dance Base Yokohama、愛知県芸術劇場 [公益財団法人愛知県文化振興事業団]

助成: クリエイター支援基金



■ 高橋萌登 (Moto Takahashi)

振付家・ダンサー・ビデオグラファー。DaBY “Wings” クリエイター。

長野県出身。幼少よりクラシックバレエを学び、日本女子体育大学卒業後、2011年より東京ELECTROCK STAIRSのメンバーとして活動。

2013年以降は創作活動を本格化させ、これまでに培った表現とテクニックを融合させたオルタナティブダンスを軸に創作を展開している。

登場人物のキャラクター性や関係性を重視し、現実と虚構が交錯する世界観を構築。観る者の記憶に沈殿するような、余白を持ったダンスを志向している。2017年にダンスカンパニーMWMW (モウィモウィ) を設立。2021年、

横浜ダンスコレクションにて審査員賞および城崎国際アートセンター賞を受賞。2024

年にはカンパニーとして初の海外ツアーを実施し、アメリカ2都市で公演を行った。

映像作品の制作にも注力し、ライブパフォーマンスとは異なるアプローチを通じて、柔軟かつ多角的な表現でダンスの可能性を探究している。



■ Dance Base Yokohama (DaBY)について

DaBYは、パフォーマンスアーツの創作を行うダンスハウスです。アーティストック・ディレクターを愛知県芸術劇場芸術監督でもある唐津絵理が務め、2020年の創設以来、「フェアクリエイション宣言」の考え方をもと、公正でひらかれた環境づくりをめざしています。「創作環境の整備」「次世代クリエイターの支援」「国際ネットワークの構築」を柱に、愛知県芸術劇場との共同製作・招聘事業をはじめ、各地の劇場・文化機関との連携や、多様なアーティストとの協働の場を継続的に創出しています。

これまでの事業の発展として2024年に始動した“Wings”では、制作支援・メンタリング・海外公演機会の創出を通じてダンスアーティストへの継続的かつ国際的な活動の基盤づくりを行っています。

DaBYは、2019年に設立した一般財団法人セガサミー文化芸術財団が運営しています。2023年度には、企業メセナ活動の優れた取り組みを表彰する「メセナアワード2023」においてメセナ大賞を受賞しました。

特設サイト：<https://dancebase.yokohama/wings/>

作品紹介ページ：<https://dancebase.yokohama/works/15033/>



©Takayuki Abe